

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970300129		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム あい		
所在地	高知県安芸市川北甲3731番地		
自己評価作成日	平成29年6月12日	評価結果 市町村受理日	平成29年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、山や農地に囲まれた静かな高台にあり、入所者が安心して快適な田舎暮らしができる環境が整っている。

利用者は、散歩やドライブ、地域への行事参加を通じて、地域の方と顔馴染みの関係を築いたり、保育園児や小中学生とのふれ合いや、併設施設の利用者と交流するほか、自分のできることを生きがいとして役割を担い、花や野菜を栽培したり、音楽療法やボランティアとの交流を楽しみながら、ゆったりと過ごしている。

また、法人施設全体が災害時における地域の避難所として指定を受けている。退所後も、必要に応じて法人が運営している介護保険施設等の利用ができるよう、バックアップ体制が整っており、利用者に安心できる暮らしを提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_kihontrue&ji_gyosyoCd=3970300129-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年8月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園風景の広がる高台にある静かな環境で、法人の運営する養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスを併設した福祉ゾーンの一部にある。利用者は、明るく、清潔で落ち着いた雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごしている。

管理者をはじめ、職員は地域に根差した事業所にしていくことを目指し、高齢になっていく利用者が自分のペースでの生活ができるよう、また、家族の思いも汲み取りながら対応して行けるよう、ケアの質向上に努めている。

地域の防災訓練等行事に積極的に参加する一方、施設の防災訓練等にも地域からの協力体制が得られている。地元の保育所、小中学生との交流、ボランティアの受け入れなども行い、地域とのつながりを大切にしている。

課題となっていた看取りについても研修を重ねて家族の意向や医療との連携を密にし、1件の看取りを行った。職員間のチームワークも良く、2年目を迎える管理者を中心に、新しい取り組みが期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: あい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時や異動してきた職員に対しても、理念を説明し、理解させた上で書面にして交付している。また、職員会でも理念について話し合い、理念が活かせるような取り組みを続けている。	開設当時からの理念が日々のケアに活かせるよう、職員の採用時には説明し、職員会等で話し合い、本部の理念、介護理念と共に確認しながら、意識づけと共有を行い、ケアの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所以前からあった施設に併設してできた事業所ということもあり、地域には定着しており、行事や清掃活動、ボランティアの受け入れ、防災訓練などを通じて積極的に交流が図れている。	町内会に加入し、清掃、運動会等地域の行事に参加している。併設施設合同での中学校の吹奏楽演奏、保育園児等の訪問もある。地域からの野菜の差し入れがあり、散歩時には地域住民と挨拶を交わす日常的な交流が図れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者との交流や福祉体験ができるように、実習生の受け入れを行っている。また、認知症ケアについて、事業所来訪者や家族の見本となれるような言葉掛けや対応を行い、身近な所から認知症への理解を浸透させられるように努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて、利用者、家族に要望や苦情がないか問いかけ、話し合っている。また、地域の部落長、民生委員、地域代表、家族代表を招き、防災についての地域連携や、行事への参加について話し合っている。	利用者代表、家族代表、行政職員、地域包括支援センター職員、地域住民代表、部落長、民生委員が参加し、現状報告、活動報告を行い、参加メンバーからは行政、地域の情報伝達のほか、質疑応答が行われている。不参加の家族には、議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主体の介護保険サービス事業所交流会への職員参加、運営推進会への行政参加をきっかけに連携が密に図れるようになり、小さな事でも気軽に相談できる関係が築けている。電話などで必要な確認を取るなどして、サービスの向上につなげている。	運営推進会での情報交換ができています。分からないことはすぐ電話での問い合わせができ、また緊急に入所の必要な利用者の相談に対しては、他の事業所と相談しながら、法人全体で速やかに対応できる協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、研修を受け、職員会等で話し合いを行い、身体拘束をしない、利用者の尊厳を支えるケアが提供できるように取り組んでいる。日中は玄関のカギをかけず、自由な暮らしができるよう、見守りを中心にした支援をしている。	職員は、法人本部や福祉施設合同の研修会、外部の研修会に参加し、職員会等での伝達で身体拘束をしないケアの理解ができている。家族に了解を得て、夜間は安全面からコールマットを5名の利用者が使っている。玄関には施錠せず、チャイムなどで対応している。言葉の拘束にも気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組んでおり、研修を受け、職員会等で事例を挙げて話し合いを行い、虐待のない、利用者の尊厳を支えるケアが提供できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、職員や家族にも説明して情報提供している。また、事業所内で対象者がいないかを検討したり、活用ができるように知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分な時間を取り、契約内容に沿って説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回設け、苦情や要望がないか確認し、また、家族だけで話し合う場も設けている。入所者、家族から相談があった時には、できるだけより良い改善が行えるよう適宜、事業所としての対応を行っている。	家族会を年4回開催し、家族だけの話し合いの場も設けている。要望や相談等に対しては速やかに対応し、運営に反映している。個々の利用者に対しては、話しを聞いたり、毎日の生活の中で行動や仕草などでの意見把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会、毎日のミーティング等で意見を聞き、行事や業務改善に反映できるように取り組んでいる。	利用者のスキンケアや食事形態の気づき等を申し送りノートに書いたり、職員会等で意見を出したりして、その都度話し合って運営に反映している。勤務の希望を聞き、休みや交代の調整をして、無理のいかない、働きやすい職場を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に個別面接を行い、能力に合わせた指導や、自己能力開発に繋がるように取り組んでいる。また、研修にも参加できる機会を設け職員会等で報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組んでいるほか、初任者研修や実務者研修、介護福祉士及び介護支援専門員受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々の能力や性格を見極め、就労する職員それぞれの事情に応じた配置やシフトを考慮している。市が主となって行っているケアマネージャー定例会に参加し、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族に見学に来てもらい、不安を軽減できるように努めている。また、待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして、信頼関係を構築できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護不安や状況をよく聞き取って把握し、気軽に相談できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のある利用者については、法人内外と連絡調整をし、入所できるように迅速な対応をしている。また、市にも受け入れの相談に協力してもらうように、働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として敬意を払いつつ、生活をともにする者として共感し、励まし励まされ日々の生活を過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と良く話しをし、コミュニケーションを積極的に図って、利用者が体調不良などで心細い時は連絡して訪問してもらう等、お互いに助け合える関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に訪問してもらったり、自宅周辺へのドライブや買物に出かけている。面会がある際には、ゆっくり過ごせるよう配慮している。また、地域の行事にも参加して、継続的な交流ができるように働きかけている。	知人や親類の馴染みの人の面会があり、自宅周辺や昔の商店街をドライブしたり、買物、神社参り等、思い出を大切に、馴染みの関係維持を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できない所はできる利用者が補い、お互いに協力し合って生活できるように、重度者と軽度者を分けず、一緒に過ごせる環境や場面づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から次の施設入所等の相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。利用者が亡くなった時には、葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添い、その人の思いに関心を持って職員が接することにより、日々の行動や表情、言葉などから思いを汲み取り、把握できるように努めている。	利用者の表情や言葉などから思いを把握したり、家族や関係者からの情報を得たりしながら、利用者個々の思いや、何を望んでいるかを話し合って確認し、職員間で共有している。	利用者の心身の状況は職員間で共有できているが、職員同士の気付きや発見を利用者毎の個別記録に追加記録して情報共有し、利用者にとっての生活リズムが一覧で確認できるような取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族との会話の中から情報を得るように努めている。また、これまで本人が大切にしてきた関わりを継続できるようにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者のできること、理解力に注目して、その力を維持できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人や家族との関わりの中で、思いや意見を聞き、全職員でカンファレンスを行って介護計画に反映している。モニタリング評価は、個別チェック表で行っている。	職員全員でカンファレンスを行い、利用者本人と家族の思いや意向を反映させて、介護計画を作成している。3ヶ月毎にケアの状況の評価、見直しを行い、本人の状況変化が生じた場合には、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや会話などを個人記録に残し、日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携体制を活かして、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会をきっかけに地域との関係も密接になり、地域のボランティア、民生委員、部落長、地域の自主防災組織や市町村などと協力しながら、事業所の行事や防災訓練も実施できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時、受診対応も行っている。	入所時に本人、家族の同意を得て全員が協力医をかかりつけ医としている。専門医の受診は管理者が同行して事前、事後に家族に報告している。緊急時には、協力医との24時間協力体制が整っている。受診結果は、申し送りノートや個人記録に記載し、情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきや変化をメールや電話連絡により相談し、助言や指導を得ている。必要に応じて医療機関との連携も密にとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応について、入所時や状態変化のある都度説明している。研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。昨年度は医師による法人の看取り説明会を開催し、家族も参加した。	家族には入所時や状態の変化がある都度説明し、その意向を聞くようにしている。前回の外部評価結果を受け、看取りの目標達成に向けた取り組みを行い、体制を整備した。訪問看護師、主治医との連絡を密にしながら、利用者1名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、対応方法を身につけたり、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行い、緊急時に対応できる実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会のメンバーに法人内他施設の防災委員長を加え、民生委員、部落長と情報交換を行い、協力体制が構築できている。また、地元消防署の協力を得て、緊急連絡訓練や防災訓練を行い、地域の防災訓練にも参加している。	法人内福祉ゾーン全体で火災発生場所を変えて日中、夜間想定で、消防署立会での避難訓練を行っている。市主催の防災訓練には利用者も住民と共に参加し、地域との協力体制を築いている。非常用の食料品、水、米、日用品なども準備している。	法人内福祉ゾーンでの訓練だけでなく、地域住民の協力のもとに、グループホーム独自の訓練を行い、通報避難誘導、避難場所、所要時間等の再確認をして、安全につなげるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体でプライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でも利用者のプライバシーや尊厳を損ねるような声掛けをしないように話し合い、徹底している。	排泄誘導の声掛けや、排泄中はトイレの外で待つなど、本人の羞恥心を傷つけないように気を付けている。また、個人情報保護の観点から、家族以外からの問い合わせには、家族に直接聞いてもらったり、家族に確認をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、利用者の自己決定を大切にしたケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩など、個別に対応し、利用者の希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などが不足する場合、家族に連絡し、補充してもらっている。美容師の資格を持ったボランティアによるカットもできるように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所や利用者の友人からいただいた旬の野菜や、自分たちで育てた野菜を皆で調理し、職員も一緒に食べることで、食事を楽しんでいる。	法人本部の管理栄養士による献立はあるが、もらった野菜を調理したり、盛り付けや利用者の状態に合った形状などの工夫をしている。食事時には、職員も会話を楽しんだり、下膳なども一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない利用者には、補食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、必要な利用者には、栄養士に相談して食の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、嚥下体操をし、ケアに努めている。必要な時には、言語聴覚士からケア用品やケアの仕方の指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁することを問題とは捉えていない。ただし、できる限りトイレで排泄できるようにさりげなく誘導し、自尊心にも配慮したケアに心掛けている。	夜間おむつ着用の利用者が2人いるが、日中はチェック表をもとにトイレ誘導し、失敗が少なくなった。布パンツでほぼ自立している利用者も3名おり、個々に応じた支援ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や生活リハビリなどで体を動かす機会を設けたり、利用者の食事や水分の摂取量にも気をつけたりして、自然排泄ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が楽しめるように朝から浴室を開放し、好きな時間に入れるように支援している。	毎日いつでも入浴できる支援をしている。入浴拒否の利用者には、時間を変えたり声掛けにも工夫をしたりして、週2回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の日光浴や活動を促し、生活のリズムを整えて、活動量を増やしている。どうしても眠れない時には、お茶等を提供しながら、職員が話を聞き、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が副作用などについても理解して、服薬支援ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人のできることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生き甲斐に繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事への参加やドライブ等、利用者個々のニーズに即した外出の支援を行っている。遠方への外出は事前に計画し、バスを利用している。	花見や海の学校などへ行くなど、遠出の時は法人のバスで、車いすの利用者も一緒に外出している。日常的には、施設内や近くを散歩し、桜の花を見たりするほか、神社の参拝や初詣等、四季折々に外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理が難しい利用者が増え、家族が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける利用者には書いてもらい、家族に郵送している。また、電話ができる利用者には、家族に電話をかけ、話しができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に家具の配置や飾り等の意見を聞き、自分の家だという意識を持ってもらえるよう、配慮している。	廊下の角にはぬいぐるみに着物を着せて置いてあったり、羽織を壁にかけたりして、落ち着いた雰囲気を作っている。玄関には造花ではあるが、利用者と共に飾りつけた花が置いてある。食堂には小さな庭に面した窓があり明るく、庭から見える木々の緑が涼しさを感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置き、仲の良い利用者同士で過ごせるようにスペースを作り、利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、家具や寝具類、写真等を持ってきて、利用者個々の好みに応じて居室に飾り、居心地のよさに配慮している。	掃除も行き届き、整理整頓されている。鏡台を置いたり、壁には写真や力士のサイン色紙などを飾り、それぞれ自分の部屋として、好みの家具などが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全確保をしながら、自立した生活が送れるように環境を整えている。		

ユニット名:

あい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の採用時や異動してきた職員に対しても、理念を説明し、理解させた上で書面にして交付している。また、職員会でも理念について話し合い、理念が活かせるような取り組みを続けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所以前からあった施設に併設してできた事業所ということもあり、地域には定着しており、行事や清掃活動、ボランティアの受け入れ、防災訓練などを通じて積極的に交流が図れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者との交流や福祉体験ができるように、実習生の受け入れを行っている。また、認知症ケアについて、事業所来訪者や家族の見本となれるような言葉掛けや対応を行い、身近な所から認知症への理解を浸透させられるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて、利用者、家族に要望や苦情がないか問いかけ、話し合っている。また、地域の部落長、民生委員、地域代表、家族代表を招き、防災についての地域連携や、行事への参加について話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主体の介護保険サービス事業所交流会への職員参加、運営推進会への行政参加をきっかけに連携が密に図れるようになり、小さな事でも気軽に相談できる関係が築けている。電話などで必要な確認を取るなどして、サービスの向上につなげている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、研修を受け、職員会等で話し合いを行い、身体拘束をしない、利用者の尊厳を支えるケアが提供できるように取り組んでいる。日中は玄関のカギをかけず、自由な暮らしができるよう、見守りを中心にした支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組んでおり、研修を受け、職員会等で事例を挙げて話し合いを行い、虐待のない、利用者の尊厳を支えるケアが提供できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、職員や家族にも説明して情報提供している。また、事業所内で対象者がいないかを検討したり、活用ができるように知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分な時間を取り、契約内容に沿って説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回設け、苦情や要望がないか確認し、また、家族だけで話し合う場も設けている。入所者、家族から相談があった時には、できるだけより良い改善が行えるよう適宜、事業所としての対応を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会、毎日のミーティング等で意見を聞き、行事や業務改善に反映できるように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に個別面接を行い、能力に合わせた指導や、自己能力開発に繋がるように取り組んでいる。また、研修にも参加できる機会を設け職員会等で報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組んでいるほか、初任者研修や実務者研修、介護福祉士及び介護支援専門員受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々の能力や性格を見極め、就労する職員それぞれの事情に応じた配置やシフトを考慮している。市が主となって行っているケアマネージャー定例会に参加し、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族に見学に来てもらい、不安を軽減できるように努めている。また、待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして、信頼関係を構築できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護不安や状況をよく聞き取って把握し、気軽に相談できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のある利用者については、法人内外と連絡調整をし、入所できるように迅速な対応をしている。また、市にも受け入れの相談に協力してもらうように、働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として敬意を払いつつ、生活をともにする者として共感し、励まし励まされ日々の生活を過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と良く話しをし、コミュニケーションを積極的に図って、利用者が体調不良などで心細い時は連絡して訪問してもらう等、お互いに助け合える関係が築けている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人に訪問してもらったり、自宅周辺へのドライブや買物に出かけている。面会がある際には、ゆっくり過ごせるよう配慮している。また、地域の行事にも参加して、継続的な交流ができるように働きかけている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>できない所はできる利用者が補い、お互いに協力し合って生活できるように、重度者と軽度者を分けず、一緒に過ごせる環境や場面づくりを行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族から次の施設入所等の相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。利用者が亡くなった時には、葬儀に参列している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者に寄り添い、その人の思いに関心を持って職員が接することにより、日々の行動や表情、言葉などから思いを汲み取り、把握できるように努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者本人や家族との会話の中から情報を得るように努めている。また、これまで本人が大切にしてきた関わりを継続できるようにも努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者のできること、理解力に注目して、その力を維持できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人や家族との関わりの中で、思いや意見を聞き、全職員でカンファレンスを行って介護計画に反映している。モニタリング評価は、個別チェック表で行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや会話などを個人記録に残し、日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携体制を活かして、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会をきっかけに地域との関係も密接になり、地域のボランティア、民生委員、部落長、地域の自主防災組織や市町村などと協力しながら、事業所の行事や防災訓練も実施できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時、受診対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきや変化をメールや電話連絡により相談し、助言や指導を得ている。必要に応じて医療機関との連携も密にとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応について、入所時や状態変化のある都度説明している。研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。昨年度は医師による法人の看取り説明会を開催し、家族も参加した。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、対応方法を身につけたり、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行い、緊急時に対応できる実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会のメンバーに法人内他施設の防災委員長を加え、民生委員、部落長と情報交換を行い、協力体制が構築できている。また、地元消防署の協力を得て、緊急連絡訓練や防災訓練を行い、地域の防災訓練にも参加している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体でプライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でも利用者のプライバシーや尊厳を損ねるような声掛けをしないように話し合い、徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、利用者の自己決定を大切にしたケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩など、個別に対応し、利用者の希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などが不足する場合、家族に連絡し、補充してもらっている。美容師の資格を持ったボランティアによるカットもできるように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所や利用者の友人からいただいた旬の野菜や、自分たちで育てた野菜を皆で調理し、職員も一緒に食べることで、食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない利用者には、補食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、必要な利用者には、栄養士に相談して食の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、嚥下体操をし、ケアに努めている。必要な時には、言語聴覚士からケア用品やケアの仕方の指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁することを問題とは捉えていない。ただし、できる限りトイレで排泄できるようにさりげなく誘導し、自尊心にも配慮したケアに心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や生活リハビリなどで体を動かす機会を設けたり、利用者の食事や水分の摂取量にも気をつけたりして、自然排泄ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が楽しめるように朝から浴室を開放し、好きな時間に入れるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の日光浴や活動を促し、生活のリズムを整えて、活動量を増やしている。どうしても眠れない時には、お茶等を提供しながら、職員が話を聞き、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が副作用などについても理解して、服薬支援ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人のできることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生き甲斐に繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事への参加やドライブ等、利用者個々のニーズに即した外出の支援を行っている。遠方への外出は事前に計画し、バスを利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理が難しい利用者が増え、家族が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける利用者には書いてもらい、家族に郵送している。また、電話ができる利用者には、家族に電話をかけ、話しができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に家具の配置や飾り等の意見を聞き、自分の家だという意識を持ってもらえるよう、配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置き、仲の良い利用者同士で過ごせるようにスペースを作り、利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、家具や寝具類、写真等を持ってきて、利用者個々の好みに応じて居室に飾り、居心地のよさに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全確保をしながら、自立した生活が送れるように環境を整えている。		

ユニット名:

ゆう

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				